

京都大学大学文書館研究紀要

第 16 号

論文

1943年夏の大量動員
—「学徒出陣」の先駆として—

西山 伸 < 1 >

論文

戦時期京大の軍事協力
—工学部と理学部を中心に—

富永 望 < 15 >

論文

京都帝国大学と東方文化事業
—教員の海外派遣を中心に—

久保田裕次 < 37 >

資料紹介

昭和十七年八月廿一日起 日誌

西山 伸 < 102 >

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項< 103 > 編集後記< 104 >

京都大学大学文書館

2018年 3月20日

『京都大学大学文書館研究紀要』編集要項

1. 京都大学大学文書館に、京都大学大学文書館研究紀要（以下、「研究紀要」という。）の構成および内容に関する基本的計画の立案その他編集の総括を行うため、京都大学大学文書館研究紀要編集委員会（以下、「編集委員会」という。）を置く。
2. 編集委員会に委員長を置き、大学文書館長をもってあてる。委員は大学文書館教員とする。
3. 研究紀要には、京都大学および高等教育の歴史、アーカイヴズ論等に関する論文、研究ノート、資料紹介、書評等を掲載する。
4. 論文は、400字詰原稿用紙換算で60枚以内、研究ノートは40枚以内、資料紹介は80枚以内、書評は20枚以内とする。ただし、編集委員会で特に認めた場合はその限りではない。
5. 研究紀要に執筆することができるのは、京都大学大学文書館の教職員のほか、学内外を問わず編集委員会で選任して依頼した者、執筆を希望して編集委員会で認められた者とする。
6. 原稿は原則として未発表のものに限る。

編集後記

『京都大学大学文書館研究紀要』第16号をお届けします。今回は、論文3本、資料紹介1本を掲載することができました。図らずも、すべてが昭和戦前期をテーマとする記事となりました。

西山論文は、高等教育機関と兵役との関係に関する画期について、1943年夏の陸海軍による飛行機搭乗員の大量動員を「学徒出陣」の先駆的な事例として位置づけました。富永論文は、京大の軍事協力について、工学部や理学部の動きを中心に提起、研究費が不足するなか国策への協力といった色彩を強めていく過程を明らかにしています。久保田論文は、東方文化事業に対する京大の対応を具体的に跡づけることによって、大学と外交・日中文化交流との関係を浮き彫りにしています。資料紹介では、当館が所蔵する「昭和十七年八月廿一日起 日誌」を翻刻しました。戦時期における高等教育の制度改革を跡づけるうえで重要な資料です。

いずれの論考も、昭和戦前期の大学と「国策」を多面的に照射する内容となっています。また、戦争、軍事、国際交流と大学との関係という現代的な課題に関わるテーマを扱っています。ご味読下さい。

今後とも、京都大学大学文書館の活動に、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

(大学文書館助教 久保田 裕次)

京都大学大学文書館研究紀要 第16号

2018(平成30)年3月20日発行

編集 京都大学大学文書館研究紀要編集委員会

発行 京都大学大学文書館

〒606-8305 京都市左京区吉田河原町15-9

電話 075(753)2651

印刷 ヨシダ印刷株式会社

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5-8-3

新大阪サンアールビル北館10階

電話 06(6305)7888

Research Bulletin of Kyoto University Archives

No.16

ARTICLE

Mass Mobilization in Summer 1943

NISHIYAMA Shin < 1 >

ARTICLE

Kyoto Imperial University's Cooperation with the Military Authorities:
Focusing on Faculty of Engineering and Faculty of Science

TOMINAGA Nozomu < 15 >

ARTICLE

Kyoto Imperial University and Japanese Eastern Cultural Project:
Focusing on Overseas Dispatching of the Faculty

KUBOTA Yuji < 37 >

MATERIAL

Journal, From August 21, 1942

NISHIYAMA Shin < 102 >

Kyoto University Archives

2018. 3 . 20